

## 早春の 刀都を駆ける



市役所前を発着点に「2009 刃物のまち関シティマラソン」が開催され、北は北海道、南は広島県から2,055人が集まり健脚を競いました。選手宣誓は、10キロコースに参加したせき親善大使の山田美咲さ

んが元気よく宣誓し、平成24年に開催されるぎふ清流国体のマスコット「ミナモ」も会場に駆けつけ、懸命に走る参加者に手を振って応援していました。

# あんな事、こんな事



## 市民と楽しく交流

関市国際交流協会主催の「スポーツ・もちつき交流会」がわかくさ・プラザで開催され、市内の企業で働く中国、ベトナム、インドネシアなどの出身の若者と関青年会議所の家族連れなど約100人が参加し、玉入れともちつきをして楽しい時間を過ごしました。ついたおもちと同協会のボランティア委員会の協力で、おはぎなどにしておいしくいただきました。

## 芳純な香りとさっぱりした味わい

関市の特産米「みのにしき」だけを使った特別純米酒「さんやほう」。美濃市の小坂酒造場で、「さんやほうサポーター」ら約40人が今年1月に仕込まれた新酒を試飲しました。この日は、さんやほうの歌を昨年作ったシンガーソングライターのリピート山中さんのミニライブも行われました。新酒は、720ミリ瓶詰めと1升瓶詰めの新酒で販売されます。





## 何が見つかったかな？

武儀東小学校4年生15人が同校前を流れる津保川でカワゲラウォッチングを行い、地元の川にすむ水生生物を調査しました。この日は気温・水温ともに低く、小雪がちらつきましたが、春に成虫として羽化する水生生物の種類や数がこの時期は多く、川の状態を調べやすい環境であるため、児童らは雪にも負けず川に入って一生懸命調査しました。

## わたしの記念日

上之保地域で「ゆず植樹祭」が行われ、市内外から40組63人が参加し、この日を人生の記念日として、ゆずの記念植樹をしました。参加者は慣れない手つきでスコップやツルハシを使って穴を掘り、高さ60センチほどのゆずの苗木をていねいに植えていきました。植樹のあとは、参加者にゆず鍋などが振る舞われ、参加者同士で楽しく交流していました。



## 満開の桜を楽しみに

桜の植樹の推進を図るボランティア団体「岐阜さくらの会」が桜の植樹を行い、大杉の農業用ため池の寺前池周辺や、ふる里農園美の関周辺に、60本の桜が植えられました。事前に植樹を予約した市内外の約80人の参加者は、スコップを手に記念植樹を行い、植樹した桜を支える支柱に、自分の名前が入ったプレートを取り付けました。

## 墨の芸術の中でブルースに酔う

篠田桃紅美術空間で、ス☆タバ・コンサートが開催され、来館者約60人が、桃紅作品に包まれた中でブルースなどの音楽を約1時間堪能しました。ス☆タバは、大阪を中心に活動するアマチュアの男性デュオで、この日はブルースを中心にジャズやカントリーの14曲を演奏。来館者は体でリズムを取りながら楽しみ、曲が終わるたびに拍手を送っていました。



## こぼれ話



特別純米酒「さんやほう」が今年もできました。このお酒は、平成10年春に誕生した関市の特産品で、今年で11年目。当時企画した関市21世紀まちづくり塾生の一部の人らが中心となり「さんやほうサポーター」として原料米“みのにしき”を無農薬、無化学肥料で栽培し、草が生えるとメンバーが手で採るといふ米づくりにこだわっています。蔵元や杜氏たちもその想いを酌み、酒造好適米ではない関市特産米“みのにしき”を当初

は掛け米だけに使用したものが、今では<sup>こうじ</sup>麴も全て“みのにしき”で仕込まれています。杜氏たちが米の質を見極め、加減しながら仕込む技は、長年の経験があればこそ。しかし、岩手県から来る杜氏たちに後継者はないとか。経験に頼る技が、刃物産業など多様な分野でもありますが、世代交代とともに技も消えていくことに危機感を感じます。幸い、美濃の蔵元に<sup>こうじ</sup>関市の20代の若者が杜氏を目指して働いていたので、「さんやほう」は続けられるだろうと期待しています。